

令和3年8月27日(金)  
愛知県公立大学法人 愛知県立大学  
担当 学術情報部 研究支援・地域連携課  
上嶋・稲生  
電話 0561-76-8843  
E-mail renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

オンライン開催「愛知県立大学公開シンポジウム 世界展開する海外日本研究者に学ぶ『東アジアにおける知の伝播のあり方ー漢籍の受容から考えるー』」のお知らせ

愛知県立大学は、地域社会への貢献や生涯学習に向けた取り組みの一つとして、これまでに蓄積された研究成果を広く社会に還元するため、以下のとおり公開講座を開催いたします。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となります。是非、貴社にてご取材いただきますようお願い申し上げます。

**【題 目】** 愛知県立大学公開シンポジウム 世界展開する海外日本研究者に学ぶ『東アジアにおける知の伝播のあり方ー漢籍の受容から考えるー』

**【概 要】** 古来、朝鮮、日本、中国、琉球など各地域は、漢字という共通の文字媒体を通して、漢籍を介して儒教・道教・仏教などの共通した思想基盤、文化基盤をベースにしなが、それを自分の栄養にして、それぞれの文化をさまざまな形に展開させ、開花させた。前近代の東アジアでは、漢字・漢籍などを通して知的体系を共有していたことはいうまでもないが、実は、漢籍そのものだけでなく、漢籍の注釈書も無視できない、大きな役割をはたしていたことに注目したい。つまり、古くから数多くの漢籍が日本列島に将来していたが、昔の人々は、ある書物を受容する際、そのまま原典を読むのではなく、なんらかの注釈書を媒体にして理解していたのだが、この受容のしかた、書籍伝播の媒体というものを念頭に入れて、文学作品、またはテキストを考えていくと、新たなものが見えてくるのではないかと思う。

本発表では、中世前期のテキスト、沙石集、徒然草、天地靈覚秘書などを取り上げて、漢籍及びその注釈書が日本文学、思想、文化の形成に、いかに大きな役割を担っていたか確認しつつ、東アジアにおける知の伝播のあり方をも考えてみたい。

**【講 演】** 曹 景恵(国立台湾大学 文學院日本語文学系所副教授)

**【コメント】** 斎藤 夏来(名古屋大学人文学研究科教授)

上川 通夫(愛知県立大学日本文化学部教授)

**【日 時】** 2021年10月27日(水) 14時00分から17時00分まで

**【方 法】** オンライン (Zoom ウェビナー)

**【申込方法】** 10月24日(日)までに、本学地域連携センターウェブサイト

(<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/>)にアクセスいただき、「世界展開する海外日本研究者に学ぶ」から所定の申込フォームに情報をご入力ください。

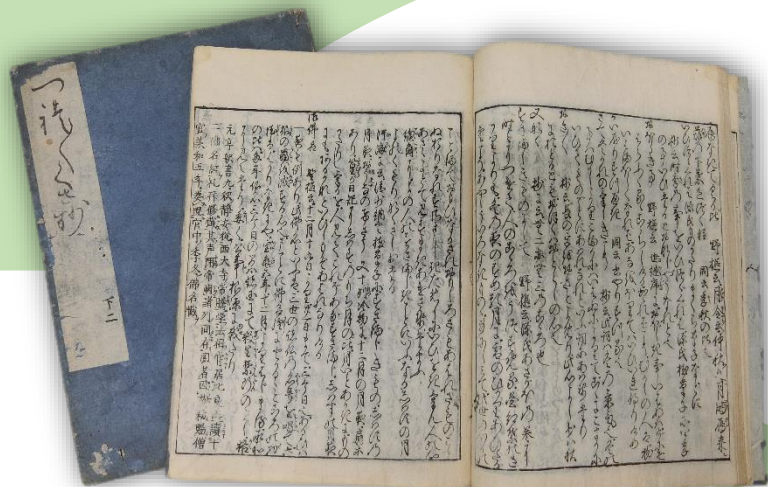
**【参加費】** 無料

**【主 催】** 愛知県立大学日本文化学部

**【共 催】** 愛知県立大学地域連携センター

# 東アジアにおける知の伝播 のあり方

## — 漢籍の受容 から考える —



『徒然草抄』 愛知県立大学図書館所蔵

[日時] 2021年10月27日(水)  
14:00-17:00 オンライン開催(Zoom)

[講演]



**曹景恵** ソウ ケイケイ  
(国立台湾大学  
文学院日本語文学系所副教授)

[コメント] 斎藤 夏来 (名古屋大学人文学研究科教授)  
上川 通夫 (愛知県立大学日本文化学部教授)

[参加方法] 本学地域連携センターウェブサイト (<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/>)  
にアクセスいただき、「世界展開する海外日本研究者」より所定の申込メール  
フォームに情報をご入力ください。



本学地域連携センターウェブサイト

[お問い合わせ先]

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3  
愛知県立大学学術情報部 研究支援・地域連携課  
TEL 0561-76-8843 FAX 0561-64-1104  
E-mail:renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

主催：愛知県立大学日本文化学部  
共催：愛知県立大学地域連携センター

